

平成26年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標	1つ「ほがらかに 温かく」
	2つ「まえむきに 誇らしく」
	3つ「しなやかに 逞しく」

達成度	A	達成
	B	おおむね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自己評価				
実践目標	具体的取組	目標の達成状況、達成に向けた取り組み状況と分析	達成度	次年度に向けた改善策
1 ”まなび”の大切さを認識し、自主的な学習の習慣化を図る。	① 授業第一主義の徹底を図る。また、研究授業・公開授業を推進し、教科指導力の向上を図る。 ② 確かな学力が身につくように、各教科の連携のもと適切な課題を出題し、学習時間の確保を図る。また、予習・授業・復習の学習サイクルの確立を図り、自立の意識を醸成する。 ③ 面談期間を設定し、重層的できめ細やかな面談を推進する。 ④ 新学習指導要領に対応した指導法の研究を行う。 ⑤ 中学校の学習からのスムーズな接続を図る。 ⑥ 読書活動を推進するとともに、読書指導・図書館講座の充実を図る	・シラバスには評価についても記載し、生徒に提示する。 ・新教育課程研究協議会に、昨年度数学・理科・芸術で参加し、今年度は国語・保体・家庭で参加したので、来年度は残りの教科が参加する。 ・シラバスを基に、観点別評価の取り組みは進んでいる。 ・授業の評価と反省は有用であり、今後も継続する。 ・各教科の「評価方法等の工夫改善のための参考資料」があるので活用する。 ・図書館講座の参加者は例年より少なかったが、レポートの提出状況や内容は大変よかった。その後も継続的に図書館を活用している姿が見られる。 ・保健体育の授業などで活用している。事前に授業内容の連絡があったので、資料を事前に準備することができた。 ・1年生2年生の貸出冊数が去年よりも大幅に少ない。 ・図書委員の活動が自主的に行われている。	B	・シラバス作成段階で、進度だけでなく評価についても意識して作成する。 ・シラバスに記載してある「身につけるべき学力」と「評価」を関連させる。 ・「進路だより」に関連して、図書館にある本の紹介もできればよい。 ・図書委員の継続性について。
2 ”かかわり”を通して諸活動のさらなる充実を図る。	① 道徳の全体計画に基づき、学校生活の様々な場面で道徳性を育てる。 ② 教科「情報」と連携し、情報モラル教育の充実を図る。 ③ 自主的な生徒会活動を推進し、部活動の活発化を図る。	・各種行事に対し、自ら相談して企画運営するなど自主的な姿勢がある。 ・生徒会は、当初人任せ的な部分もあったが自ら考えて進めるようになった。 ・部活動も一所懸命取り組んで、各種上位大会にも出場している。文化部の発表活動も盛況で好評を博している。	B	・職員定数の減少に伴い、部活動顧問の兼任が増える。
3 キャリア教育を充実し、進路実現をめざす。	① 進路課を中心として、キャリア教育の一層の充実を図る。 ② 進路第一志望達成に向け、全体と個別の両面からの指導を行う。 ③ 卒業生や大学との連携による体験講演や出前講座により、進路意識の高揚を図る。	・取り組んできたことについて、本当に効果があったのかを検証し、場合によっては廃止してもよいものがある。 ・フルグラムは使いやすくなった、活用している。これからもTO DOリストの活用を呼びかけ、使い方の指導をしていく。 ・進路行事への生徒の主体的参加と進路指導の連続性が必要である。 ・現実感のない進路目標を掲げる生徒への指導のあり方。	B	・進路講演会を外部に依頼する場合には、話してもらう内容について、しっかり事前打ち合わせをする方がよい。 ・各種データをいかにも活用するか。 ・情報が保護者に十分に伝わるようにすべき。
4 心身の健康と安全に努め、モラルの向上を通じて社会性を養う。	① いのちの大切さ、かかわりの大事さを学ぶ研修や講演を実施する。 ② 食育を推進し、健康で逞しく生きる力を育成する。 ③ 携帯・交通マナー、服装・礼儀・あいさつなど、自主的なモラルの向上に努めるとともに、安全指導の徹底により、交通事故や学校事故の絶無を図る。 ④ ボランティア活動等を推奨する。 ⑤ 面接やカウンセリングを通して、心の健康の保持増進を図る。また、SC委員会（含特別支援教育）の支援体制の一層の充実を図る。	・金銭盗難等に対する未然防止の指導が必要。 ・市民から自転車マナーについて指摘されることがあった、交通事故防止・交通マナーアップの日常的な啓発活動が必要。（交通安全委員会） ・健康観察簿の活用が定着しており、保健委員会発行の「保健だより」と合わせて、生徒の自主的な健康管理を促すことができた。 ・不登校傾向の生徒には、クラス担任や部顧問による日常的な面談、学年主任や養護教諭およびSC委員会との連携などで対応している。SC相談日も毎回予約でいっぱいになるなど十分な活用が図られている。 ・家庭科と保健課の連携で「乳幼児と生徒のふれあい体験事業」を実施した。	B	・衣替えの機会を捉えて、制服の着こなしについて強調する。（生徒会・生活委員会） ・生徒会執行部及び各種委員会のスムーズな引き継ぎ。 ・山形北高としてのボランティア活動の模索。 ・学校保健計画および学校安全計画の様式を、来年度に向けて実効性のあるものに変更する。
5 互いに個性を尊重し、いじめ等のない好ましい人間関係を構築する精神を養う。	① 「いじめ防止基本方針」に基づき安心・安全な学校づくりを推進する ② 学校教育全般を通し、豊かな人間性を養う。	・「心の健康チェックシート」の結果を集計、共有することでストレスを多く感じている生徒を早めに把握でき、担任の面談や教科担任会等で活用することができた。	B	・「いのちの学習」を各学年との連携のもと、充実させていく。
6 環境教育をさらに推進し環境保全に努め、共生の精神を養う。	① 省エネを図り、ごみの減量化・節水・節電など資源の効率化を図る。 ② 危機管理意識を喚起するための関する講座や訓練等を実施する。	・今年度は「防災講話」を行ったが、内容に生徒の興味を引くものが多く、危機管理意識を高める機会となった。	B	・防災訓練について、今回は実践を通して緊張感を高めて訓練へとつなげるようにする。 ・「ぶじっ」の活用について、さらに改善を図る。
7 保護者・地域との一層の連携をめざす。	① HPや『緑陵』等を通し、地域社会への情報発信に努める。 ② 開かれた学校づくりを一層推進する	・評議員は積極的に活動に参加していただいているが、PTA総会の出席率が停滞している。	B	・引き続きPTA総会の出席率アップを図る方法を検討する。 ・PTA活動を通し、さらに保護者と学校の意識のずれを少なくしていく。

学校関係者評価
意見・要望・評価等
・図書館講座、読書活動の更なる充実をお願いする。 ・もう少し学業を頑張ってもらいたい。
・「文武両道」では、部活動から学習への切り替えが重要であるが、保護者の対応の改善が必要であれば、どこをどのように改善すればよいのかを教えてください。
・進路指導は生き方指導でもある。 ・少子化が進んでいるので、都会の大学に進学しても山形に戻ってほしい。
・保護者の学校への車の送迎は校地内や付近の道路の危険性を考えると、保護者にしっかり規則を守ってもらわなければならない、事故が起こってからでは大変である。
・入学させて良かったが、現状に満足することなくもっと欲を持ってほしい。
・災害時の備蓄は他校に先駆けてのもの、危機意識の評価が向上することを望む。
・学習と部活動の両立について、保護者の不安への手立てや説明をお願いする。 ・PTA総会の出席率向上を望む。

総括
○自転車マナーについて ・生徒は被害者にも加害者にもなり得る。生徒の将来を守るためにも、一層の指導が必要である。 ・危機管理について、火災や地震の避難訓練等とあわせ危機回避能力を育成する必要がある。
○スマートフォンについて ・学校としての統一したガイドラインを示し生徒・保護者への周知を図る必要がある。
○学習・進路指導について ・生徒一人一人の自己実現を支援するため、一層の充実を図っていかねばならない。